

大豆だより(第1号)

令和5年5月
南加賀農林総合事務所
J A 能 美



そのほ場、大豆をまくのに適していますか？

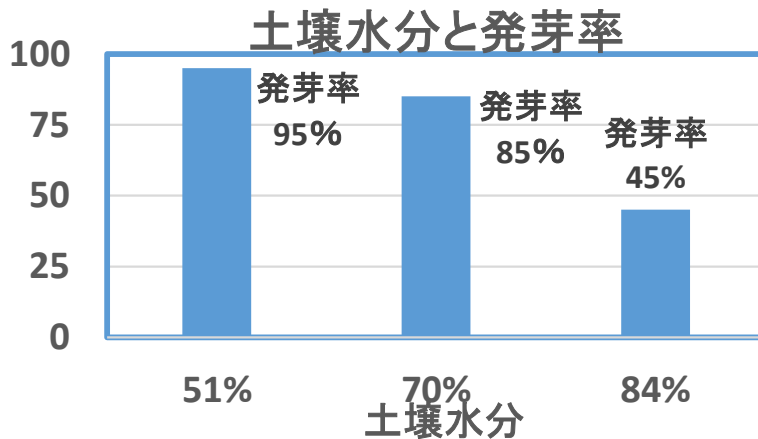
適切なほ場を選定しましょう！

- ▶ 比較的乾きやすいほ場である
- ▶ 必要な時に入水できる(7月下旬～9月上旬の干ばつ時)



大豆の収量を確保するためには？

排水対策が最も重要です！



土壤水分が高いと
急激に大豆種子が吸水し
発芽率が低下します



土を乾かして 発芽率を上げる！

排水対策の
フローチャート

1 表面排水(必須)

不十分な場合

地下排水を検討

できる

2 地下排水の実施

できない

3 表面排水の強化

1 排水対策(必須): 表面排水

- ・明きよは額縁排水溝に加え、縦方向に数本排水溝を設置
- ・ほ場が乾きやすくなるように、サブソイラで心土破砕を行う

重要

額縁排水路とほ場内排水路
を連結する

重要

排水口は深く掘り下げる

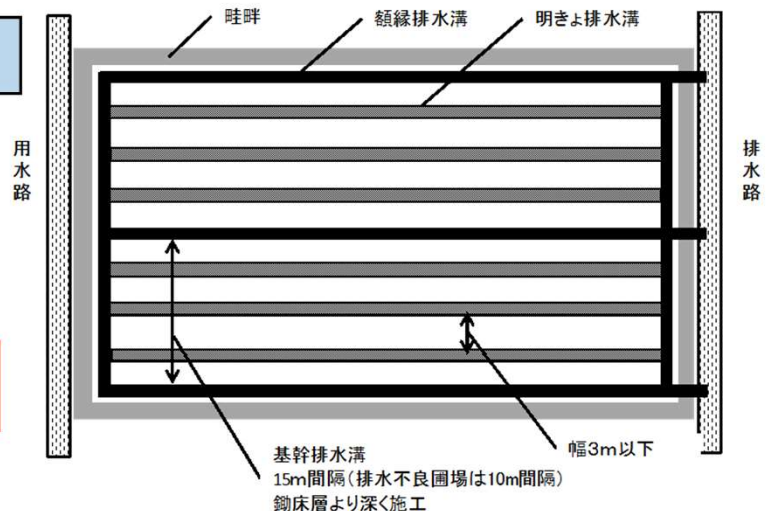


図 排水路の施工例

(裏面に続く)

2 排水対策(排水不良田の場合):地下排水

＜サブソイラ(弾丸暗渠)による排水対策＞

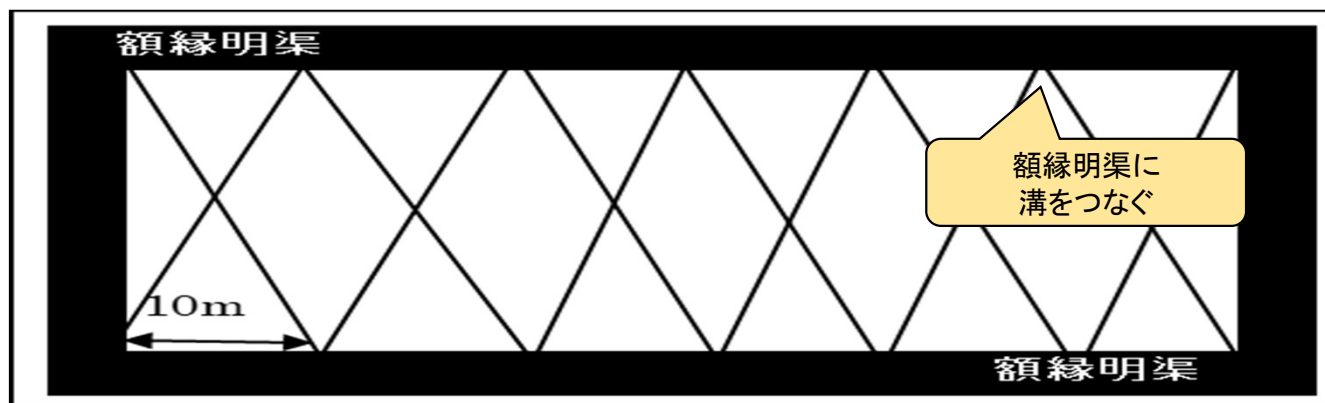
- ・サブソイラ(弾丸暗渠)の利用で、湿害の原因となる硬盤を破碎し、水の縦浸透が良くなります。
- ・サブソイラにより弾丸暗渠を施工したほ場の多くでは排水性が向上し、大豆では、①苗立の向上、②除草効果の向上 等の効果が現れています。
- ・ただし、地下水位が高いほ場では、心土破碎により地下水が湧き、むしろ湿害を助長する恐れがあるので、サブソイラによる暗渠施工は行わず、表面排水を強化しましょう(下記の3を参照)。



(サブソイラと弾丸暗渠)



(弾丸暗渠の施工の様子)



3 地下排水できない場合:表面排水の強化

＜畝立て＞

- ・畝立同時播種機を導入することで、播種する位置を高くすることができます。
- ・狭畦栽培や平畝播種の場合、サイドリッジャー等を用いて耕起、播種と同時にほ場内排水路を施工し、畝を立てることで播種する位置が高くなります。

(畝立同時播種)



(額縁明渠の作溝)



＜ほ場内排水路の溝を多く施工＞

- ・ほ場内に細かく(3m間隔)排水路を掘り、溝の深さをなるべく深く(20cm以上)するなど表面排水を強化しましょう。

排水対策をしっかり行って、苗立ち向上！